スコーレ映画サロンのお知らせ vol.277

◆日　時：2023年9月24日(日)　14:00～18:00
◆会　場：名古屋国鉄会館
（わからない方は10分前にスコーレに集合またはお問い合わせください）
※映画サロンは禁酒禁煙です。
◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

課題映画

▷**福田村事件**
(9/1よりシネマスコーレほかにて公開)

▷**こんにちは、母さん**
(9/1よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

サロンメモ

ここ暫く課題映画と私の好みが合わないものが続いていたが、今月の2本はどちらも素晴らしかった。
「アウシュヴィッツの生還者」はよくあるナチス、ホロコーストもののイメージで売っているが、観てみるとこれがかなり優れた恋愛映画！宣伝に釣られて社会派にしては物足りないという意見もあったが、そこはアメリカ人バリー・レヴィンソン作品。ヨーロッパ勢が作るこの手の映画とは一味違うクオリティに仕上げている。ラストカットに酔いしれた。レヴィンソンの復活を喜びたい。

問題は「リボルバー・リリー」か。物語の展開に疑問を感じたら、その観客はそこで途中下車。これは仕方がない。ただそこで降りなかった客に待っているのは美術セットの美しさと行定演出のリリシズム。私はアクションにはとんと興味がないので、アクションシーンは綾瀬はるか頑張ってるなあ、程度に流して見ていたのだが、やっぱり彼女を讃える意見はかなり多かった。そして問題のあるシーンがやって来る。映画は面白さ以外に絶対に必要なものがある。それは作り手の理念だ。尊敬する父に躊躇せず撃てと言われたが少年は撃たなかった。この映画を頑張っている行定作品から、作り手の理念に満ちた芯のある骨太作品に昇華させた瞬間だ。涙が出た。こういった映画を観たい。そんな幸せな気持ちにさせてくれた掛け値なしの名シーンだった。まあでも途中下車した人も多く、いつも言ってる事だが賛否が大きく分かれる映画ほどサロンは面白くなる。いい映画を選べたと思う。

次回は期待の日本映画を並べた。劇映画初演出の森達也作品と、これが最後にならない事を願う山田洋次作品。さてどうなるか。(小西)

初めて参加される方は参加費無料！ 10分前にシネマスコーレまでお越しください。

8/20(日) サロン参加者	アウシュヴィッツの生還者	リボルバー・リリー	君たちはどう生きるか	ミッション：インポッシブル デッドレコニング PART ONE	658km、陽子の旅	トランスフォーマー ビースト覚醒	キングダム 運命の炎	CLOSE クロース
牧野 鐘徳	5	4	4	5	5	3		5
田中 健一	3	3						
斎藤 文彦	5	5	5	5			4	
山本 正明	4	4	3	5	3	3	4	4
天野 雄喜	4	4	4					5
近藤 生久子	4							
白石 麻由子	5	4						
高橋 広河	4	3	3	4		4	3	
加藤 千穂子	4	1		5		4		
横井 清	5	2	3	4	3	3	3	4
榊原 隆裕	5	4				4		
岡村 昌俊	4	2						
加藤 賢二	3	1						
三田 正継	4	4	4	3	4		3	5
井上 章	5	3	4					5
小西 孝直 (スコーレサロン代表)	5	5	5		3			
坪井 篤史 (スコーレ支配人)	4	3	4	4	4	3	4	
木全 純治 (スコーレ代表)		4	5	5	3		4	